

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691000010	
法人名	株式会社北陸福祉会	
事業所名	はびねすグループホーム福野	
所在地	富山県南砺市二日町2077-7	
自己評価作成日	令和6年11月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=1691000010-00&ServiceCd=320](https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=1691000010-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会	
所在地	富山県富山市安住町5番21号	
訪問調査日	令和6年12月20日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心してその人らしく過ごすために、一人ひとりに寄り添ったサービスを提供できるよう職員間の連携に努めています。誕生会や納涼祭等の行事を実施し、気分転換を図ると共に利用者同士の交流を深めて頂き、天気の良い日は畑の野菜を収穫したり草むしりをしたり玄関先に出て日向ぼっこをする等、日常生活の中で刺激と楽しみを見つけて頂けるような支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を大切に、職員はみな明るく、気配りだけでなく、目配りも丁寧に行われている。事業所は閑静な住宅地内の一角にあり、リビングには明るい日差しがいろいろな場所から差し込み、量の小上がりもあって、広くゆったりとして落ち着いて時間を過ごすことができる。敷地内には20坪くらいの菜園があり、職員と利用者が一緒に栽培している。入浴は個室で、ゆっくりと楽しんでもらえることができ、体調や状況に合わせて曜日や時間を変えて入浴することができる。食事は職員全員が一週間交代で当番となり、作成した献立に基づき手づくりの食事が毎食提供され、利用者から喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『挨拶・気配り・思いやり』の理念のもと、一人ひとりがその人らしく暮らせるよう地域との交流を徐々に増やすことに努めている。	法人の理念は職員連絡ボードに、常に掲示されており、十分に浸透が図られている。「挨拶・気配り・思いやり」のケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のお祭りで獅子舞を披露して頂いたり、児童クラブの子どもたちから利用者へメッセージボードを頂く等の交流がある。	メッセージボードは現在は玄関先で受け取るだけとなっている。外出イベントを計画しながら、事業所と地域の交流の計画も進んでいる。今年度は中学校の職場体験を受け入れた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	14歳の挑戦や福祉課の高校生の実習を受け入れる事により、認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・区長・地域包括センター職員に集まって頂き、現状報告や意見交換をすることでサービス向上に活かしている。	規定に則り、定期的開催され事業所内の報告や、質問に対する回答が行われている。地域の参加者からは震災、災害時における町内の対応の仕方を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と連絡を取り合い空室状況やサービスの取組みについて、情報交換をしながら協力関係を築いている。	行政からの情報収集のアンケート等があればその都度回答を行っている。事業所からは利用者の状況やサービスの中身の報告・相談が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度「身体拘束廃止委員会」を実施し、話し合う場を設けている。防犯上、玄関は施錠しているが必要時には職員の付き添いで出られる。	委員会は適時に開催されていて、職員間で身体拘束をしないケアが共有されている。玄関は基本的にロックされており、日常的な自由な外出は制限されている。	必要時だけではなく、普段から玄関先や駐車場横にある畑等へ自由に出入りできる環境づくりを職員間で検討することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度「虐待防止委員会」を実施し、話し合う場を設け虐待が見逃される事のないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な研修を通し成年後見制度について学ぶ機会がある。実際に活用されているご家族もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族への説明を行い、不安や疑問を解決できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族へ通信を送付し個々の様子をお伝えし、2か月に1度のホーム新聞にてホームの状況もお伝えしている。ご家族からの意見・要望は随時対応できる体制を整えている。	ホーム新聞の一面にはそれぞれの利用者の細かな状況が担当者によって記載されている。家族の希望等は面会に来られた時にしか聞けていない。利用者の思いを聞き取る方法として、それぞれの職員が感じとった意向を日誌や記録表に記載し共有している。	アンケートからは多くの家族が事業所内での面会を希望している。コロナ禍での安全確保とのバランスもあるが、少しでも早く事業所内への立ち入り許可を出せるように法人として検討されることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は管理者が把握し、会議等の場で代表者へ伝える事により、より良い運営が実現される。	管理者は普段から職員との会話を重要視して困りごとや悩みごとの相談に乗る等、気配りをしている。吟味した事柄は法人上層部に伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に勤務体制に気を配り、個々の努力を認め、より良い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は積極的に職員を研修に参加させており、認知症実践者研修を修了した職員も多く、個々のスキルアップに貢献している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の合同研修会等に参加することで同業者との交流を深め、ネットワーク作りに努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様々な研修を通し成年後見制度について学ぶ機会がある。実際に活用されているご家族もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階でご家族の不安や要望をヒアリングし、解決できるようなサービスを提供する事で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要とされる支援を見極める為にアセスメント表を用いて細かな情報収集を行なうよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し合いながらより良い関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を常に共有しながら協力し支えられるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止対策の為、ガラス越しではあるが面会できる体制を整え、要望があれば電話で会話をする機会を設けたり、はがきのやり取りをサポートしたりしている。	コロナ感染対策上、家族親族との面会は自由にできていない。事業所内での活動に止まり、利用者にとっては内部の方々との関係が中心となっている。	外部との接触が限られている中で、新旧の利用者間や、スタッフとの馴染みの関係の構築の重要性を意識して、その関係から得られるそれぞれの新しい生活スタイルが図られるように努めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等も配慮しながら、他者との交流がスムーズになるよう座席の配置やレクリエーションの提供を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、常に相談・支援が出来る体制づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で常に情報収集を行い希望・意向があれば記録に残して職員全員が把握できるようにしている。	利用者の思いや意向、表現されたことをくみ取ることは、ケアをする側にとってかなりの集中力が必要となる。管理者は職員の特性をつかみ、個別にも教育機会を持つように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの情報収集を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、心身状態・有する力は一覧表にまとめて変化があれば訂正し職員が把握しやすいようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思いを聞き取りケアプラン実践確認表を作成し、毎日職員がチェックしている。ミーティング時にモニタリング・カンファレンスを行っている。	ケアプランの目標の実施は項目ごとに毎日評価し、記載している。個別の担当者は1ヶ月の評価を行い月末のミーティングで全体検討をし、ケアプランの見直しに反映している。家族からは面会時または電話で意見を求め、反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、特記事項は申し送りを行い職員間で情報共有する事で介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに柔軟に対応できる体制づくりに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の訪問診療や理美容サービスを利用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の確認と、今後の希望や必要性を考慮した上で適切な医療が受けられるよう受診や訪問診療の対応を行っている。	かかりつけ医を希望する利用者は定期的に家族が支援している。月1回の訪問診療を希望される利用者が多い状況である。日常的な医療相談を必要に応じて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は常に利用者の健康状態の変化に気付くよう努め、変化があればホーム医や主治医と連携し適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には継続看護介護計画書を提供することで診断・治療に役立て頂き、病院と連絡を取りながら回復状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入所される際に説明し理解を得ており、事業所としてできる限りの支援に努めている。	入所時には終末期の対応について主に家族と時間をかけて話し合っている。家族や利用者が入所時に終末期の具体的な状況をイメージすることは難しいが、必要時には適切に対応を相談することで家族の理解を得ている。看取りをした事例はない。	人間の死は避けて通れないが、利用者の最期の迎え方について、ケアする立場から全職員そして管理者は検討の継続を望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはミーティング時等で定期的に話し合っており、応急処置や初期対応に関しては日頃の業務において実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP訓練を実施し避難方法や情報収集の方法を把握し、運営推進会議等で区長や地域包括センターより地域の協力体制を確認している。	BCPの重要性を認識しながら、内容を検討している段階である。災害時の避難場所が事業所からかなり離れているため、近隣に避難場所を設定するよう運営推進会議で地区役員と話し合っている状況にある。	BCPに沿った訓練は緒に就いたばかりの段階である。運営推進会議等での議題として、早い時期に内容の濃い計画の作成を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時や日々の支援の中で職員の意識向上を図り、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけが出来ているか常に意識するよう努めている。	法人の理念である「挨拶・気配り・思いやり」を実践の場で発揮できるように、現場教育やミーティングなどの機会に確認することを管理者は実行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の希望を表したり自己決定できる環境や職員との関係づくりに気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いをくみ取り、個々のペースを大切にして、決められた業務でも臨機応変に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容サービスの支援や、好みを考慮しつつ衣服の調整、整容の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の素材を使用したり彩りの工夫をして目でも楽しんで頂き、個々の状態に合わせた形状での提供で無理なく摂取して頂いている。できる方には配膳等のお手伝いもお願いしている。	利用者の嗜好や希望する献立をもとに、職員が献立を作成し、3食を手づくりで提供している。菜園で育てた野菜や、スーパーで職員が選んだ食材を使用しているため、毎食楽しんでゆっくり食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立を作成し、個々に食事量・水分量を調整すると共にその方に応じた形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要に応じて見守り・介助し口腔衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参照しながら声掛け・誘導し、出来るだけ失禁を減らして自尿を促すよう努めている。	全ての利用者の排泄に関する心配や不快感が少なくなるように、ケアプランでの目標や日々の排泄チェック表を通して、その人に適した支援ができるよう取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に毎日バナナを提供している他、食事にも乳製品や食物繊維を豊富に含んだ食材を使用する等便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望を考慮しつつ、1日に1ユニット3名程度の入浴を実施しており、1人づつゆっくりと入浴して頂いている。	入浴は毎日行われている。週2回の入浴を基本としており、個人の希望する曜日や時間などに対応し、ゆっくり提供できている。介助者は安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えながら夜間の良眠へと繋がるよう努めている。体調を考慮し必要に応じた休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう厳重に確認し正しく服用して頂くと共に、処方に変更があった場合はその後の体調に変化はないか等注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力・嗜好・生活歴に応じたレクリエーションや軽作業の提供、季節によっては畑の草むしりや野菜の収穫等で役割や楽しみを見出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以後、必要な受診等以外は自由な外出を控えて頂いているのが現状。	事業所の敷地内は日光浴や散歩、野菜作りの手伝いや見学ができる環境となっているが、現在活用はされていない。家族との外出は診療への同行以外は行われていない。	天気の良い日に畑の野菜を収穫したり、草むしりをしたり玄関先に出て日光浴をしたりすることで、日常生活の中に刺激と楽しみを見つけられるような工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理はご家族にお任せしており、購入希望の物品等があればお小遣いとして預かっている中で購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で携帯電話を所有されている方もおられ、どなたかに電話をかけたり手紙を書いたりしたいという希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く常に清潔を保ち落ち着いた雰囲気のあるホールとなっている。行事の写真や季節に合わせた貼り絵、利用者が仕上げられた塗り絵等を掲示してあり交流の場となっている。	併設されているユニット毎では特別な制限がないため、交流できている。掃除も行き届き、清潔に保たれている。1日のうち、長時間過ごす食堂兼ホールもゆっくり過ごせるように利用者の作品などが展示され、楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にもソファを置き、気の合う方同士でテレビを観たり談話を楽しんで頂ける。本棚には雑誌や諸説等もありゆったりとした時間を過ごして頂ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物やご家族の写真等を居室に置いておられる方も多く、居心地良く過ごせるようになっている。	各居室には洗面台が設置され、便利に活用している。整理整頓が行き届き清潔感はあるが、馴染みのものや趣味、個人の好みのもの、好きな衣服の収納場所があまり見られなかった。家族の入室も現在はない。	居心地よく過ごせる居室について、職員間で話し合い検討することに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ個々の身体能力を考慮して居室・座席を決めさせて頂き、安全に且つ自立した生活が送れるよう配慮している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 49	玄関は基本ロックされており日常的に自由な外出は制限されている。	確実に利用者の安全を確保できる環境において、出来るだけの外に出る機会を設ける。	本来であれば自由に外を出入り出来る事が理想ではあるが、認知症の利用者だけで外に出る事は安全面においてはかなりのリスクを伴う為、今後気候が良くなる頃を目途に職員同伴の元外を散歩やホームの畑の収穫をする等の時間が日常的に設けられるよう職員間で上手く時間の調整に努める。	6ヶ月
2	10 20	多くの家族は事業所内での面会を希望されているが、感染対策上玄関での面会となっている。	感染予防も考慮しつつ、出来るだけ家族の要望に応えられるよう努める。	面会だけでなく、本人の居室や衣類の確認等の希望も多い為、要望に応える為、また感染防止の為にどうすべきかを考え実行できるよう努める。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )